

(9) 2014.10 ふじさと

ここでは、陸軍、海軍、空軍、陸戦隊（海兵隊に相当）の4隊が3か月交代で衛兵が代わることになっており、今は海軍の当番とのことで、白の制服が眩しいくらいに映えていました。ガイドの陳さんの説明では、台湾には徴兵制があるものの、自分から何軍に行きたいとの希望は叶えられない上に、例えば海軍と陸軍では食べ物で例えると海軍でステーキとすれば陸軍は鶏肉という程の格差があるとのことでした。

予定した研修時間にもう少し余裕があるということと、10時に蒋介石のメモリアルホールである「中正記念館」を見学することができました。



中正記念館

11時30分に、最初の研修先である台北市にある微風広場という大型ショッピングセンターに行きました。ここでは西川正史さんという副支配人のような方が説明してくださり、「都市部の購買層と日本製品・食品・農産物の流通実態」について視察しました。2002年にオープンし、日本の果物を中心に販売を展開し

ており、価格は日本価格の3倍程度で販売されていました。

また、県内の米も5kg袋で販売されていました。台湾では米はもともと民生品との意識が強いため、10%程度の上乗せしかできなく儲からないとのことでした。ホクトの舞茸は100gパックで価格が55元、日本円で約195円で販売されていました。

台湾で販売PRをするとなると、新聞折込は購読部数が少ないために効果がなく、逆に輸送コストが安いので、ダイレクトメールの方が効果が大きいとのことでした。

また、日本の農家の場合流通に問題があり、最終ユーザーのところまでは配慮がなく、農産物輸出は推進しているものの、現実には港で止まってしまい、国内流通で終わってしまっているとのことでした。また、補助金があればやるし、補助金が無くなればサッサと止めてしまう、と手厳しい意見もありました。

日本にも支店がある小籠包の専門店です。少し遅めの昼食後、午後2時過ぎに台北市日本工商会を訪問しました。現在台湾に進出している日系企業が約1,500社と言われていますが、台北市日本工商会には、その内の500社程が加盟しており、会員相互の業務上の便宜増進と親睦、両国の親善と貿易、経済の発展に寄与することを目的に1971年に設立されたとのこと。ここでは、支店長に相当する山本幸男さんという方が対応してくださり、ここでも、台湾人の熱い思いということで、日本と台湾は特別な関

係であり、台湾人は日本人を兄貴分と思っていることが日本では十分に理解されていないこと、そして、現在でも台湾では日本の昭和が生きているということ、さらに、過去への評価ということで、約7割の人が台湾発展の基礎を作ったということで日本の台湾統治時代を評価している、ということでした。

私に置き換えてみますと、中国も台湾もあまり変わりはないのではないかと、と安易な考えが強かったのですが、初日、2日目の視察研修により、それが根底から覆されたこともあり、台湾の高校生は日本語を一生懸命勉強しているとのことからも、自分の不勉強さを恥じた次第でした。

この工商会は会員相互の会であるため、例えば日本から新たに進出したい希望がある場合の相談窓口は、日本貿易振興機構（ジェトロ）であるとのことでした。



日本工商会

午後4時からは、故宮博物院を見学しました。ここは世界4大博物館の一つであり、収蔵文物は69万点にも上り、世界

屈指の中華文物コレクションを誇っています。清の時代の翠玉白菜や鐘・鼎の銘文を刻む器物、象牙透彫雲龍文套球などは、正に圧巻でした。

夕食はレストランで四川料理を堪能し、夕食後に全員で台北最大の夜市「士林夜市」を散策見学し、ホテルまでタクシーに分乗して移動しましたが、日本の感覚で約3千円くらいかかるのではないかと思われる距離（時間も）を150元程度（約600円）で到着することができました。これもガイドさんから伺ったのですが、以前自分が結構遠い距離をタクシーに告げた際に、途中までしか行かない旨を言われ、結局3回乗り継いで目的地に行ったことがあるとのこと、日本では遠距離利用は上客と言われるのとは対照的だと感じた次第で、広島の被害状況をニュースで確認しながら、2日目の日程を終了しました。



士林夜市

（11月号へ続く）